

Heartful

September 2021

vol. 79

11月24日、当院は移転します！



11月24日(水)に、当院は隣のビルに移転します。移転までの3ヶ月間、3回にわたって“ハートフル”で新医院のコンセプトについてお届けしたいと思います。現在まだ工事中ですが、隣のビルは4階以上がコンフォートホテル(10月14日開業予定)で、当院はその1階(ビルの表示は2階)に入居します。

さて、何故今回移転することを決意したかについてですが、その理由としては何よりもワンフロアで診療が出来るようになることに尽きます。

現在は当ビルの3階と4階に分かれて診療を行っているため、手術患者様には、上下を行ったり来たりと移動していただくなくてはなりません。また、事務所が4階にあるため、スタッフも上下を行き来しなくてはなりません。



今回ワンフロアになり面積も少し広くなることで、今までよりも効率的な診療が行えるようになるのではと期待しています。

移転に伴う大きな変化としては、

●**待合室を3ヶ所に分けます。**

検査をお待ちになる方、診察を待たれる方、受付とお薬や会計を待たれる方は、それぞれ別の待合室にてお待ちいただきます。

●**診察室が4室に増えます。**

はじめは2人(月曜は3人)の医師で行いますが、今後診療医が増えることにより、診察をお待ちいただく時間が少しでも短くなればと考えています。

●**手術室も2室になります。**

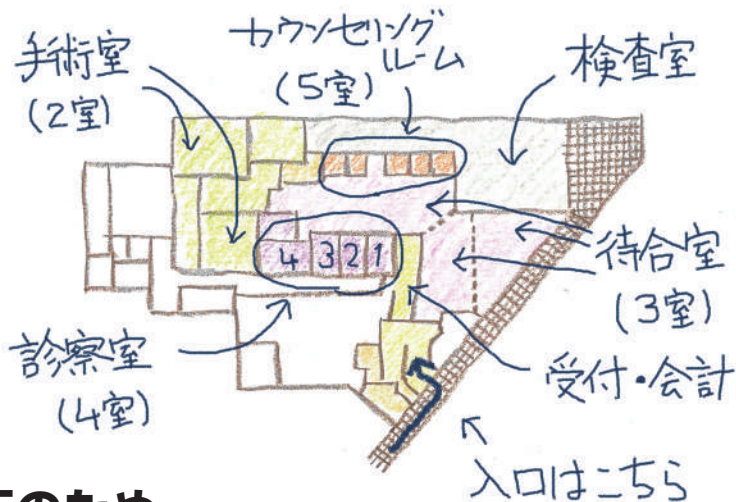
レーシックなどレーザー手術専用の手術室と、白内障手術などの手術室を分けて、効率よくゆったり手術を行っていきます。

最後に、院内の環境設備にも 十分に配慮したものにする予定です。

新型コロナ禍の中で空気の清浄化が叫ばれていますが、換気システムには
HEPAフィルターを搭載するなど過剰と言われるかもしれないほどの設備を導入し、
院内の空気を常にクリーンに保って、ウイルス対策を万全とします。
また、出来るだけ快適に院内で過ごしていただくために、音響やインテリアにもこだわり、
診療の合間をゆっくりお待ちいただけるようにしていきます。



新医院ではITを駆使した新しい
診療システムも導入していく予定ですので、
それについては次回お伝えしたいと思います。



◆ 11月18日から1週間、移転のため
休診となりますことをどうぞお許してください。



ぎふチャンラジオ

『今日もラジオは!? 2時6時』



9月は『眼球打撲』についてお話ししました。

目を強くぶつけた時には、誰でもとても心配になると思います。
子供の手が当たったり、ボールが目にあたったりと、
様々な理由で目は打撲を受けます。

さて、その際に痛みだけではなく、見えにくくなることもあります。
障害を受ける部位としては、まずは角膜の表面、前房と呼ばれる
目の前の方のスペース、そして網膜などの目の後ろの方の部分
など、その打撲の程度に応じて変わります。
通常は目の前の方だけに障害が留まることが多いです。



まずは角膜の表面が擦過などにより傷がつきます。痛みは強く出ますが、これは軽症であり、
じきに回復します。次に虹彩（茶目）が障害を受け、炎症や出血が出ることがあります。これ
も点眼などで適切に治療すれば、1週間ほどで回復します。時に網膜に影響が及ぶことがあり
ます。ボクサーなどが網膜剥離になったりしますが、よほど強い打撲があると、網膜が腫れたり、
剥がれたりすることがあります。これは重傷で、手術が必要になることもあります。もっと強
い衝撃を受けると、目の後ろを囲んでいる骨が折れてしまうことがあります。これを眼窩底骨
折と言います。これも手術が必要になることがあります。

さて、スポーツでボールが目にあたることはしばしば起こりますが、意外なことに一般に硬い
ボールより柔らかいボールの方が目への障害が強く、最も重度のものはバドミントンのシャトル
です。これは目に食い込んでしまうため、重症になることが多いのです。

いずれにせよ、目をぶつけたら出来るだけ早く眼科医の診察を受けて、
その程度に応じて適切な処置を受ける必要があります。



こちらから聴いていただくことができます。↑